

プロジェクトWET国際会議  
及び

米国における水辺の整備や利用等に関する調査報告書

平成 16 年 6 月

財団法人 河川環境管理財団

## プロジェクトWE T国際会議

### 及び

## 米国における水辺の整備や利用等に関する調査

#### 〔日 程〕

平成16年5月14日(金)～24日(月)

#### 〔内容及び場所〕

都市部における水辺の整備と活用：ロスアンゼルス市内とその周辺  
河川関係施設および水面利用調査：フーバーダムとブラックキャニオン  
プロジェクトWE T国際会議：ワイオミング州ジャクソンホール

#### 〔参加者〕

山本 雅史：河川環境管理財団理事兼研究第一部長  
佐藤 聖介：河川環境管理財団研究第一部研究員



# 〔目 次〕

はじめに .....	1
1. 都市部における水辺の整備と活用 ロスアンゼルス市内およびその周辺 .....	2
2. 河川関係施設および水面利用調査 フーバーダムおよびブラックキャニオン .....	8
3. プロジェクトWET国際会議 .....	12
おわりに .....	22
(資 料).....	23
出張日程表 .....	25
プロジェクトWET国際会議プログラム .....	26
プロジェクトWETインターナショナル参加国名簿 .....	28
プロジェクトWETコーディネーターリスト .....	29
プロジェクトWETインターナショナル出版物等一覧表 .....	31
日本からの報告 (パワーポイント)	



## はじめに

ワイオミング州ジャクソンホールで開催されたプロジェクトWE T国際会議に出席することを主目的にして、平成16年5月14日から24日にかけて米国へ出張した。

往路、研究第一部所管業務である水辺の整備や活用に関する調査をロスアンゼルス市および周辺で、また水に関する施設や水面の利用に関する調査をフーバーダムとブラックキャニオンにおいて行った。さらに、休日を利用してグランドキャニオンを視察した。

ロスアンゼルス市内においては、利用面から見た都市河川や水辺の状態に興味があった。事前に調査地点等について具体的な情報を得ることができず、旅行社に趣旨を説明しガイドを手配してもらった。このガイド（現地在住日本人）が優秀で、河川以外にも、人々が憩う池、水に関する博物館、マリナーを案内してくれ、そのどれもが非常に参考になった。

ロスアンゼルス川は、流路延長が100kmほどの日本でいえば中規模河川であるが、下降から40km付近までは完全な三面張であり、ただ洪水を流すための水路でしかなかった。これと比較してみると、憩いや潤いの場としての日本の河川は、せつかくのものがむだにされているような気になってくる。

バルボア貯水池の水源は下水処理水であり、日本でも下水処理水の河川維持用水としての利用が検討される中、参考になる事例である。

マリナー・デル・ロイは、日本からも調査に行っているようであるが、不法係留に悩む河川や海岸管理者には、施設としても管理面でも参考になる。

フーバーダムは、これひとつで日本のダムの総貯水量の倍あるといわれるが、そのイメージからすると堤体はきわめて小さいという印象を受ける。これだけのものが1930年代に建設されたことは驚きであるが、堤体の設計支配外力が水圧であり水量ではないことを考えると、現在においては日本の技術力もなんら遜色のあるものではない。ただ地形と土地利用に恵まれないだけである。

プロジェクトWE T国際会議は今年が第1回目で、10カ国から26人が出席した。プロジェクトWE Tの国際化が進む中で、お互いが情報を交換したり先行している国が後進の国における導入を助けることなどにより、全体として高まっていくような組織作りが第一の目的である。

参加者の数の割には全世界から集まっており、内訳も政府関係者からNPOまで、また進度もさまざまであるが、そのいずれもが極めて熱心で、特に、経済的に恵まれないアフリカから3カ国も出席していることや、フィリピンでは若いボランティアが一生懸命に取り組んでいることは強く印象に残った。組織的にも経済的にも恵まれている日本としては一層熱心に取り組む必要があるだろう。

## 1. 都市部における水辺の整備と活用

[5月15日(土)：ロスアンゼルス市内]

ロスアンゼルス市内において、都市河川や水辺の状況を、主として利用面から調査した。以下、調査地点ごとに述べる。

### 1). エコー公園

- ・ 市内、メキシコ系を中心とする低所得者層の多い地域に存在。利用者も周辺住民が多いと思われる。
- ・ 水は、水位変動の形跡が無いことからフーバーダムなど遠隔地からの導水と見られる。
- ・ 市内の樹木等植物には、スプリンクラーによる灌水がなされる。この水源も導水。水の少ないわりに水の管理は大雑把で、雨の日にスプリンクラーが回っていることもあるとのこと。



写真－1 エコー公園



写真－2 散歩する親子

## 2). ロスアンゼルス・プエブロ歴史博物館

- 1819年から22年にかけて、44人のメキシコ人がロスアンゼルス川に水源を求めて入植した後、遠隔地からの大規模導水により、今や全米第2位の都市に発展した歴史を、水に焦点を当てて展示した小さな博物館。
- メキシコ人街にあり、入場無料。
- 水に関係した仕事をするものから見れば、街の隅に小さくひっそりとあることがもったいないような気がする。



写真-3 ロスアンゼルスへの導水の歴史の説明



写真-4 実物大の導水管



写真-5 節水ポスター



3). ロスアンゼルス川 (河口より約 35 k m、ユニオン駅南東約 1 k m)

- 典型的な三面張——川幅 50~60m。川辺で何か楽しもうという雰囲気ではない。
- 真ん中に低水路 (幅 5~6 m)。
- 流速 2~3 m/秒、流量 4~5 m<sup>3</sup>/秒と推定される。
- 川底にテントが 2、3 張り——浮浪者かレクリエーションかは不明。
- 水源は自然水源ではないと考えられる。下水処理水も入っていると思われるが、見た目の水質は悪くなく、橋の上からでは臭いも感じなかった。



写真-6 1st Street 橋上流方向



写真-7 日光浴であろうか

4). ロスアンゼルス川 (河口より約 40 k m)

- ここより下流は三面張、上流は側岸はコンクリート張だが河床部は植生の状態から見て自然状態と思われる。
- 周辺には住宅もあり、河岸に遊歩道が設置されている。
- 河川環境の保全を訴える看板に併設して、川に生息する鳥、両生類、爬虫類や植生の説明版が設置されているが、中に、『ガラガラヘビに注意』との警告がある。魚が生息しているかどうかは不明だが、中に入って探してみようという気にはならない。



写真-8 ここから上流はブッシュ



写真-9 環境保全を謳う看板



写真-10 植生と生息動物



写真-11  
ガラガラヘビに  
注意

### 5). バルボア貯水池

- 差し渡し1 kmほどの貯水池 (reservoir)。丘陵上にあり、堤体は見当たらない。
- 水源はロスアンゼルス市内の下水処理水。臭いも無く、見た目それとはわからない。但し、流入部は少し泡立っている。
- 7日間貯留し、その間に窒素が除去されるとの、救護所係員の説明だが、理屈はよくわからない。
- その後は、ロスアンゼルス川に放流されるとのこと。
- ボートに乗るにも救命胴衣の着用が義務付けられており、救護所もある。
- 



写真-12 バルボア貯水池



写真-13 ボート乗り場兼救護所



写真-14 水辺で憩う家族連れ



写真-15 流入口(においは感じない)

## 6). マリーナ・デル・ロイ (王様の海の意)

- ・ ロスアンゼルス空港北側、川河口の湿地帯を埋め立ててできた広大なマリーナ。
- ・ 係留可能隻数7,000隻。係留費\$500/隻/月程度。
- ・ 日本と違い、不法係留は取締りが厳しいとのこと。一人の権利とみんなの迷惑のどちらを優先するかの違い。
- ・ 最奥部には海水浴場も整備されている。子どもが多いのは、大人はサンタモニカ等のビーチに行くためと思われる。



写真-16 説明看板

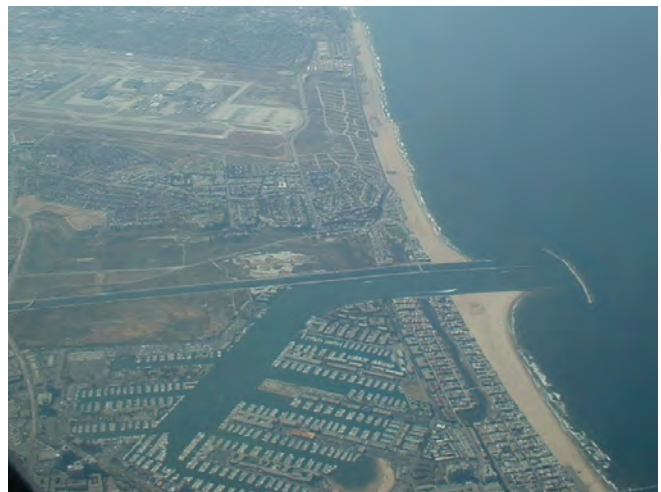


写真-17 上空より(左上ロス国際空港)  
※マリーナ上方に流れ込むバローナ・クリークも三面張





写真-18 ボートの大きさも様々



写真-19 最奥部の人工ビーチ

#### 7). ロサンゼルス市民にとっての水辺

- ・ 水浴は、サンタモニカ等、数あるビーチかプール。プールは学校だけでなく一般家庭やアパートなどにもかなりあるとのこと。
- ・ 河川の利用は、多くが三面張か、緑があってもガラガラヘビがいる可能性があることから、沿線の散歩などに限られるものと思われる。
- ・ 市民にとっては、レクリエーションには車でビーチや郊外に行くのが一般的であり、市内の公園などは、車を持たない層の利用が多いと考えられるとのこと



写真-20 バルボア貯水池



写真-21 マリーナ・デル・ロイ  
沿いのレストラン

## 2. 河川関係施設及び水面利用調査

〔5月17日(月)：フーバーダム、ブラックキャニオン〕

### 1). フーバーダム]

- ・ フーバーダムはラスベガスからバスで小1時間のところにある。ツアーメニューもたくさんあり、観光スポットのひとつ。
- ・ 高さ221.4m。堤頂長379.2m。堤体底幅(上下流方向)201.2m。重力アーチ形式。コンクリート体積333万 $m^3$ (付属設備を含む)。
- ・ 総貯水量395億 $m^3$ (32百万エーカー・フィート)。貯水池延長180km。
- ・ 堤体の第一印象は「小さい」、貯水池面積は「広い」。



写真-22 フーバーダム



写真-23 フーバーダム下流(上流側四角形は利水放流管、下流側アーチ型-左右にある-は洪水吐)

- ・ 目的（ラフティング・ガイドのブライアント氏による）：①洪水調節、②利水（農水、上水21百万人分相当）、③シルト・コントロール(ダムにより、98.5%ピュア・ウォーターになる)、④水力発電
- ・ 建設は1930年から1935年。



写真-24 観光施設は右岸側に集中



写真-25 見えているのは貯水池のごく一部分

- ・ フーバーダムの名前の由来は、6州にメキシコを加えた協定作りを成し遂げた商務長官 Herbert Hoover による。1930年当時のフーバー大統領ではない。



写真-26、27 観光客（月曜日午後3時頃の様子）



## 2). ブラックキャニオン

- ラフティングによる川くだり(船頭兼ガイド:ブライアント氏)。乗客29人(米国、英国、カナダ、イスラエル、日本)。



写真-28 フーバーダム直下流の乗船場

- フーバーダムから19km下流のウィロー・ビーチまで、途中30分の昼食休憩(昼食は、出発時に各自に保冷ボックスに入れて渡される)を含み、3時間強。

- ツアー営業許可は当該会社に乗船場のみ下りているとのことだが、理由は不明。9・11テロ以降、フーバーダム直下流に行けるツアーは当該ツアーのみとのこと。



- ガイドの説明としては、フーバーダムの目的、建設当時の様子や残骸、周辺の地形、動植物、温泉源(摂氏58度:汲み上げてきて説明)など。

写真-29 ブラックキャニオン

- ダムのマイナス面については、「良いことばかりではない。」という程度のさらっとした説明。質問に答える形で、流速4~5m/秒(但し、実感としてはとてもそのように速いとは感じられなかった)、水深10m程度、河口部には水は届かない、というようなこと。——質問にはできるだけ答えようとする意欲を感じた。

- 安全管理については、規則が厳しいといいながら、ライフジャケットの装着方法を教えただけで、実際には装着させず。他に2隻いたが、そちらは装着していた。一方、飛沫避けにポンチョを無料配布するなどの親切心があり、この点は、他の2隻と逆。



写真-30 昼食のために上陸(水は特に冷たいとは感じなかった)

- ウィロー・ビーチでの、ボート等レンタル料は、5メートル級50馬力

釣り船が、\$ 25 / 時間、\$ 125 / 日、3人乗りカヌーが、\$ 15 / 時間、\$ 65 / 日。



写真-31 沿川の動物



写真-32 ウィロー・ビーチ  
(貸しボート基地)



### 3. プロジェクトWET国際会議

[5月18日(火)~22日(土)：於：ワイオミング州ジャクソンホール]

#### [参加者]

WET本部：デンス・ネルソン、ジョン・エトゲン、サバナ・バーネス、  
ジャスティン・ハウ、リンダ・ハヴィーム

本部関係者：サンドラ・デヤング、ハイディー・パウル、クリスティン・ター  
ーディフ

カメルーン：ローズマリー・エニー

カナダ：ポウリーン・ニストロム

メキシコ：リタ・ヴァスケス、ギェラモー・ラリオス、エトナ・フランコ、  
ロサリンダ・\*+・ヴィソーン

パラオ：ヘレン・スギヤマ

フィリピン：ユッカ・ホロパイネン、ヴィッキー・メンドーサ、ジャマ・ジ  
ャドワニ

トーゴ：セナ・アルーカ

ウガンダ：テディー・ティンダマニヤイア

米国：ゲーリー・クック

ハワイ：キム・ソルチャガ

フランス(スポンサーのネッスル社より)：エトワン・サレス、ヒューベア・ジ  
ェニス

日本：山本雅史、佐藤聖介

[10カ国、26名]



	クック	エトワソ	ケン		
ケンドラ	クリスティン		ローズマリー	ヴァッキー	ジヤマ
キム	サンドラ	ロザリンド	エトナ	リョウコ	ジョン ヒューヘア
ジャスティン		ヘレン	サハナ	山本	佐藤
ジヤマ	ギィエラモー	リンダ	セナ	テディ	リタ ポーリン
デニス					ハイディ

写真-33 プロジェクトWET国際会議出席者

### 〔国際会議の目的〕（デニス・ネルソン）

- ・ ネットワークの構築
- ・ 新コーディネーターがプロジェクトWETについてより深く理解するための助言
- ・ 将来に向けての計画：各種会議、スポンサーとのかかわり、ウェブサイト、等
- ・ 共通認識の醸成
- ・ パートナiershipについての理解



写真-34 デニス・ネルソン  
(プロジェクトWET主唱者)

### 〔参加者の会議参加目的意識〕

- ・ 各国間のパートナーシップの構築
- ・ 運営資金調達方法
- ・ 戦略：教師へのアプローチ方法
- ・ ガイドブックのローカライジングの方法
- ・ 意見交換／経験の共有
- ・ 国内会議の立ち上げ
- ・ ウォーター・フェスティバルの計画
- ・ 水に関する教育の目的→平和
- ・ 第4回世界水フォーラムへの準備
- ・ インターナショナル・ウェブサイトの構築
- ・ 国際的リーダーの育成



写真-35 出席者の熱意には感動する

〔検討中もしくは検討したい／してほしい事項〕(デニス・ネルソン他)

- ・ 10 カ年計画の策定
- ・ 各国版 WET ガイドブックの作成
- ・ サポート体制の構築
- ・ 印刷物や用具の配布／販売ネットワークの構築
- ・ 各国オリジナルアクティビティの開発（まず各国 1 サンプル）
- ・ 世界各地リーダーシップワークショップの開催
- ・ 世界各地事務所の開設
- ・ コミュニケーション方法の改善：本部よりニュースレターを発刊(毎月)
- ・ 世界共通の『水についての物語』の作成
- ・ 資金調達：各国用、インターナショナル用



写真-36 会場のスノーキングロッジ

15 年間民間資金には頼らずにきたが、政府援助が削減されたため、やむを得ず民間からの援助を受け入れることにした。

ヴァレリー・ゲイツ (Valerie Gates：スチール入りゴムベルトの開発者) 夫人から今後 5 カ年で 125 万ドルの資金援助が約束されている。また、ネッスルよりほぼ同額が援助される予定だが、こちらは毎年更新なので一抹の不安がある。このほか 50 企業がスポンサーになることを申し出ている



写真-37 ジャクソン・ホール中心部

メキシコ、フィリピンはネッスルが援助している。日本がどうするかは日本の自由にしてよい。

- ・ “Make a Splash” (全米各州で同一日に一斉に行われるウォーターフェスティバルにおける学童向け水教育活動) のビデオ作成
- ・ 本部のモンタナ州立大学からの転出；より自由な活動
- ・ プロジェクト WET 大学(バーチャル大学)の開校：20 年以内に



- ・ プロジェクトWETフェロー(メンター、インターン)の創設：本部に一定期間勤める
- ・ グローバル・ウォーター・スター・プライズの創設：水教育功労者の世界的認知をめざす
- ・ 学童向け書籍の増刊
- ・ 島国の水問題、洪水、渇水への注目
- ・ 2006年にメキシコシティで開催される第4回世界水フォーラムへの対応：その時にプロジェクトWET国際会議を開催する→メキシコのリタ・ヴァスケスが中心となる。
- ・ 来年の開催地→ハワイ：来年からは、名称はコーディネーター会議のままだが、一般参加者も受け入れる。

#### 〔各国からの発表〕

- ・ 国の一般的事項
- ・ 国の水に関する問題；洪水、水不足、水質、上水道の未整備、女性の過重労働(水汲み)、子どもの健康、貧富の差、トイレの未整備
- ・ 政府の水教育に対する理解／理解のなさ
- ・ 運営資金調達方法／困難さ
- ・ 民族や言語の多様さに伴う活動の困難さ  
(例：メキシコ—62 の言語、1 億人中 11 百万人が原住民でスペイン語も話せない)
- ・ 活動状況



メキシコ—1998年～2003年の間に4000人のエドゥケーターを養成



ガイドブックはメキシコ版を作成済み  
フィリピン—3年間で1117人のエドゥケーターを養成

ガイドブックは当初は米国版をそのまま使用し、少しずつローカライジング中

写真—38、39、40 各国の状況説明

〔会議中紹介されたアクティビティーやツール〕

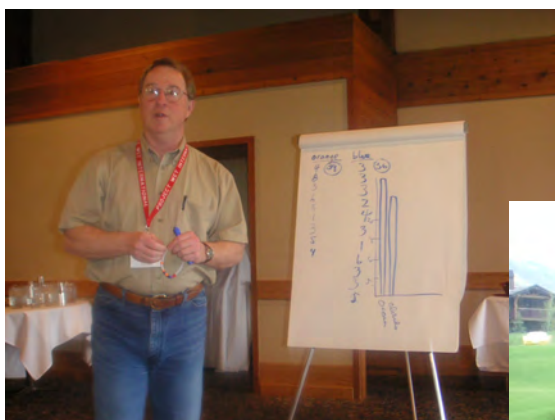


写真-41 驚異の旅



↑写真-42 レイン・スティック



↑写真-43 地下水汚染の仕組み



↑写真-44 透水層／不透水層  
(説明模型)



写真-45 透水層／不透水層  
(アクティビティー)



←写真-46 Accuracy(正確)と Precision(集中しているが全体が違っている可能性がある)の違い-観測に際して重要



↑写真-47 グローブ・トス



←写真-48 塵も積もれば



↑写真-49 From H to OH



←写真-50 8-4-1, One for All

この他、

- ・ハンプティ-ダンプティ- (壊れた環境を戻すのは難しい)
- ・ブルー・ビーズ (流域の概念を教える)
- ・水の物語 (水にかかわる物語の一部から出来事を当てさせる)



[スタディー・ツアー]：スネーク川ラフティング



写真-51 山からの雪解け水に乗って  
約 12 マイルの川くだり  
(水深は 1 m 前後、流速は場所によるが  
3 m/秒程度と思われる)

写真-52 双胴型に比べ飛沫のかかり  
方が少ない



写真-53 ライフ・ベストを厳重に装  
着

写真-54 雷雨下での凍えるような昼  
食







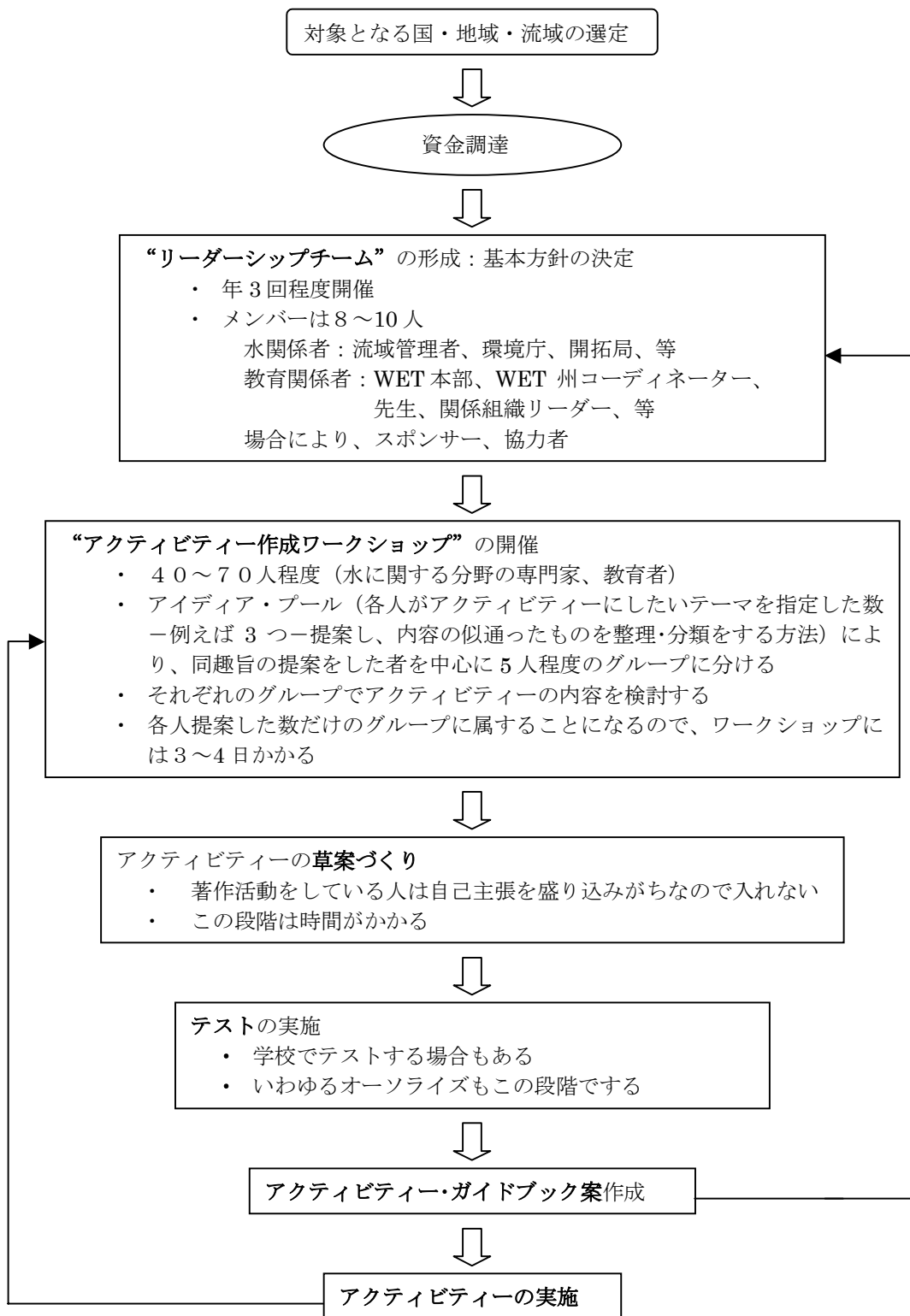
写真-55、56 岸辺の管理は国家森林局 (National Forest Service)  
(左：丸石護岸、右：コンクリート破片を使った護岸)



写真-57 ペリカンの大群 (国鳥のハクトウワシも3羽見えた)

〔その他〕

- ・ ワークショップにおいては、peer teaching (参加者をグループ分けし、それぞれのグループにアクティビティーを実演させる) ことが最重要
- ・ ワークショップの人数は10～50人程度で、25～30人が最適



図－1 アクティビティーのローカライジングの手順

## おわりに

いっどこへ行っても、見ること聞くことのすべてが勉強になる。

プロジェクトWETの運営や今後の業務遂行においてはもちろんであるが、研究第一部においては環境教育に関係した講演や説明の機会もあり、それらの場においても今回各地で見聞したことはおおいに活用できる。例えば、ロスアンゼルス川の、水の少ししかない三面張りや、緑があればガラガラヘビの恐怖もあるという状況を見てもらえば、日本の川はむしろ恵まれているというように意識を変えてもらえるかも知れない。

今回の出張においては、ロスアンゼルスにおいては新井茂子さんに、ジャクソンホールではリョウコ・メイソンさんに大変お世話になった。

新井さんは、しばしば日本のテレビ局の依頼で現地取材のコーディネートをするという方だけあって、案内先も説明も極めて要領よく、私たちとしてもラッキーであった。今回は、土曜日であり、直接関係者を訪問して調査することができなかつたため、具体的な行き先について、新井さんのアイディアにこちらの意向を入れたものを当日朝決めたが、あらかじめ案内してくれる人だけ決めておいて、事前にメール等で打ち合わせておくことができれば、さらに有効性が高まる。

リョウコ・メイソンさんは、最初にジャクソンホールに住み着いた日本人で今も唯一の日本人であるが、余暇時間には市内を案内していただくなど、ホスピタリティーに富んだ方であった。プロジェクトWET本部は、地元の商工会議所に照会して探し出したようである。

そのほか、プロジェクトWET本部や参加者の好意もあって、快適に出張を終えることができた。

感謝しながら結びとしたい。

[以 上]

米国出張(プロジェクトWET国際会議出席等)行程表(山本、佐藤(聖))(平成16年5月)

日次	月日(曜)	内 容	都 市 名	現地時刻	交通機関	宿 泊 地	備 考
1	5月14日(金)	都市部における水辺の整備と活用調査 (ロスアンゼルス市内及びその周辺)	成田発 ロスアンゼルス着	16:25 10:05	UA890	ロスアンゼルス	
2	5月15日(土)	都市部における水辺の整備と活用調査 (ロスアンゼルス市内及びその周辺)	ロスアンゼルス発 ラスベガス着	15:40 16:44	UA1488	ラスベガス	
3	5月16日(日)	コロラド川(グランドキャニオン)視察	コロラド川			ラスベガス	休日利用
4	5月17日(月)	河川関係施設及び水面利用調査 (フーパーダム及びブラックキャニオン)	フーパーダム ブラックキャニオン			ラスベガス	
5	5月18日(火)	プロジェクトWET国際会議 (ワイオミング州ジャクソン)	ラスベガス発 ソルトレイクシティ着 ソルトレイクシティ発 ジャクソン着	7:00 9:15 10:00 11:05	DL736 DL4100	ジャクソン	会議詳細別紙
6	5月19日(水)	プロジェクトWET国際会議	ジャクソン			ジャクソン	
7	5月20日(木)	プロジェクトWET国際会議	ジャクソン			ジャクソン	
8	5月21日(金)	プロジェクトWET国際会議	ジャクソン			ジャクソン	
9	5月22日(土)	プロジェクトWET国際会議	ジャクソン発 ソルトレイクシティ着 ソルトレイクシティ発 ロスアンゼルス着	16:30 17:32 19:05 20:02	DL4102 DL4102	ロスアンゼルス	
10	5月23日(日)	帰途	ロスアンゼルス発	12:55	UA891	機中	
11	5月24日(月)	帰着	成田着	15:55			

**Project WET International Coordinators Conference  
Snow King Lodge  
Jackson Hole, Wyoming  
May 18 – 22, 2004**

**TUESDAY, May 18**

Grand Room, Mezzanine Level

1:00 – 6:00 pm

Hotel and Conference Registration

3:00 – 5:00 pm

*Make a Splash with Project WET Water Festival*

1. Incredible Journey
2. Ground Water and Springs/Ground Water Flow Model
3. Hitting the Mark
4. Blue Beads
5. Humpty Dumpty
6. The Rainstick

6:30 pm

Welcoming Ceremony and Introductions

Icebreaker Activity (The Thunderstorm) (The Blue planet)

Dinner

Conference Overview and Discussion of Goals

Overview of Wednesday's schedule

Informal Discussion/Social in Hospitality Room

**WEDNESDAY, May 19**

Grand Room, Mezzanine Level

7:00 – 7:45 am

Breakfast

8:00 – 10:15 am

Project WET International Administrative Overview

Project WET International's 10 Year Plan

Project WET International Foundation (Status Report)

Adapting, Translating, and Publishing the Project WET Curriculum and Activity Guide

- Case Studies: Mexico, Philippines, Japan

10:15 am	Break
10:30 am – 12:00	Presentations by Project WET Coordinators
NOON	Lunch
1:15 pm – 3:00 pm	Presentations by Project WET Coordinators
3:15 pm	Break
3:30 pm – 5:00 pm	Presentations by Project WET Coordinators
6:00 pm	Dinner
7:30 pm	Recap and Overview of Thursday’s schedule Informal Discussion/Social in Hospitality Room

**THURSDAY, May 20**

Grand Room, Mezzanine Level

7:00 – 7:45 am	Breakfast
8:00 – 10:15 am	Examples of Project WET Workshops
10:15 am	Break
10:30 – 11:00 am	Strategies for Implementation of Project WET
11:30 – 4:00 pm	Field Trip on the Snake River (meet in lobby)
6:00 pm	Dinner and Sponsor’s Recognition
8:00 pm	Day’s recap and Overview of Friday’s Schedule Informal Discussion/Social in Hospitality Room

### Project WET International Network (as of 5/04)

#### Level 1: Official WETI Programs with Signed Agreements

1. American Samoa            Malelega Tuiolosega  
Am. Samoa EPA, Pago Pago, AS
2. Cameroon                 Rosemary O. M. Enie  
Cameroon Vision Trust, Limbe, CM
3. Canada                    Pauline Nystrom  
Canadian Water Resources Association and Environment  
Canada, Regina, SK
4. Dominican Republic     Sergio Ledesma  
ECOVIDA, Sociedad, Ecologia y vida Inc.  
Santo Domingo, DR
5. Japan                     Masafumi Yamamoto  
Foundation of River and Environment Management,  
Tokyo
6. Mexico                    Rita Vazquez del Mercado Arribas  
Mexico Institute for Water Technology (IMTA),  
Morelos, Mex.
7. Nigeria                    Anthony Akpan Johnson  
Pan African Vision for the Environment, Lagos, NI
8. N. Marianas Is.           Pamela Mathis  
Commonwealth Utility Corp, Saipan, NMI
9. Palau                     Helen Sugiyama  
Republic of Palau Utility, Koror, Palau
10. Philippines             Jukka Holopainen  
Center for Environmental Awareness and Education,  
Quezon City, Philippines
11. Togo                     Sena Alouka  
Young Volunteers for the Environment,  
Lome, Togo
12. Uganda                  Teddy Tindamanyire  
National Environment Management Authority, Kampala,  
Uganda
13. Ukraine                 Volodymyr Verbytsky  
Ministry of Education and Science, Ukrainian National  
E.E. Center for Youth, Kiev, UK
14. U.S.A.                    Gary Cook, Director; Bozeman, MT

## Project WET International Coordinators Contact List

### AMERICAN SAMOA

Malelega Tuiolosega  
American Samoa EPA  
Executive Office Bldg  
Pago, Pago  
American Samoa 96799  
684-633-2304  
684-633-5801 (fax)  
[legat@yahoo.com](mailto:legat@yahoo.com)

### CAMEROON

Rosemary O. M. Enie  
Executive Director  
Cameroon Vision Trust  
P.O. Box 1075 Limbe  
South West Province  
Republic of Cameroon  
+ 237-958-0292  
[sjwpcameroon@yahoo.com.hk](mailto:sjwpcameroon@yahoo.com.hk)  
[cameroon\\_vision@yahoo.co.uk](mailto:cameroon_vision@yahoo.co.uk)  
[camvision2002@yahoo.co.uk](mailto:camvision2002@yahoo.co.uk)

### CANADA

Pauline Nystrom  
Project WET Canada  
2365 Albert Street, Room 300  
Regina, SK  
Canada S4P 4K1  
306-780-8312  
306-780-5350 (fax)  
[pauline.nystrom@ec.gc.ca](mailto:pauline.nystrom@ec.gc.ca)

### DOMINICAN REPUBLIC

Ing. Sergio Ledesma  
Sociedad, Ecologia Y Vida Inc.  
(ECOVIDA)  
Calle Segunda #2  
Urbanización María Josefina  
9 Km Highway Sanchez  
Santo Domingo, Dominican Republic  
809-508-1931  
[canaur@codetel.net.do](mailto:canaur@codetel.net.do)  
[ecovida7@hotmail.com](mailto:ecovida7@hotmail.com)

### JAPAN

Masafumi Yamamoto  
Executive Director  
Foundation of River and Watershed  
Environment Management  
2F 1-9-12 Irifune Chuo-ku  
Tokyo Japan 104-0042  
03-3297-2608  
03-3297-2677 (fax)  
[yamamoto-ma@kasen.or.jp](mailto:yamamoto-ma@kasen.or.jp)

### MEXICO

Rita Vazquez del Mercado A.  
IMTA  
Paseo Cuauhnahuac 8532  
Jiutepec, Morelos, Mexico 62170  
52 777-329-3642  
52 777-329-3673 (fax)  
[rvazquez@tlaloc.imta.mx](mailto:rvazquez@tlaloc.imta.mx)

### NIGERIA

Anthony Akpan  
Pan African Vision for the Environment (PAVE)  
Suite 03, 211/215, Idimu Road  
Opposite YEMKEM Plaza  
Egbeda  
P.O. Box 494, Ijanikin  
Lagos, Nigeria  
+234-803-351-0419

### NORTHERN MARIANAS ISLANDS

Pamela Mathis  
CUC  
Lower Base  
P.O. Box 501220  
Saipan, MP 96950  
670-235-6973  
670-235-6145 (fax)  
[pammathis@saipan.com](mailto:pammathis@saipan.com)



**PALAU**

Helen Sugiyama  
P.O. Box 6011  
Koror, Palau 96940  
680-488-2445  
680-488-1016 (fax)  
[roputility@palaugov.net](mailto:roputility@palaugov.net)

**PHILIPPINES**

Jukka Holopainen  
Ctr for Env Awareness and Education  
3<sup>rd</sup> Floor, Gilmore Heights #18  
Granada Street and Corner Castilla Street  
Barangay Valencia  
Quezon City 1100  
Philippines 1209  
63 32 895-6031  
63 32 899-5660 (fax)  
[JUKKA@CEAE.ORG](mailto:JUKKA@CEAE.ORG)

**TOGO**

Sena Alouka  
Executive Director  
Young Volunteers for Environment (YVE)  
Box 80470  
Lome, Togo  
+228-220-0112  
+228-912-7273 (fax)  
[yvetogo@hotmail.com](mailto:yvetogo@hotmail.com)

**UGANDA**

Teddy Tindamanyire  
Wetlands Inspection Division  
Ministry of Water, Lands and Environment  
P.O. Box 9629,  
Century House, Parliament Avenue  
Kampala, Uganda  
+256-041-251-1375/254706/348773  
+256-0410348772 (fax)  
[tindamanyiremtt@yahoo.co.uk](mailto:tindamanyiremtt@yahoo.co.uk)

**UKRAINE**

Volodymyr Verbytskyi  
Director  
19 Vyshgorodska Str.  
Kyiv, 04074, Ukraine  
0380-44-430-0260 (fax also)  
[udenc@kiev-page.com.ua](mailto:udenc@kiev-page.com.ua)

**UNITED STATES OF AMERICA**

Gary Cook  
Director  
Project WET USA  
201 Culbertson Hall  
Montana State University  
P.O. Box 170575  
Bozeman, Montana 59717-0575  
406-994-5564  
406-994-1919 (fax)  
[gcook@montana.edu](mailto:gcook@montana.edu)

PROJECT WET INTERNATIONAL  
Publications and Products Overview  
5-13-2004

Materials for Educators (Published)

1. *Project WET USA Curriculum and Activity Guide* (English)
2. *Project WET Mexico Curriculum and Activity Guide* (Spanish)
3. *Project WET Philippines Curriculum and Activity Guide* (English)
4. *Project WET Japan Curriculum and Activity Guide* (Japanese)
5. *WOW! The Wonders of Wetlands*
6. *Conserve Water Educators Guide*
7. *Healthy Water, Healthy People Educators Guide*
8. *Healthy Water, Healthy People Testing Kit Manual*
9. *Discover a Watershed: The Watershed Manager Educators Guide*
10. *Discover a Watershed: The Everglades Educators Guide*
11. *Discover a Watershed: The Rio Grande/Rio Bravo Educators Guide* (English)
12. *Discover a Watershed: The Rio Grande/Rio Bravo Educators Guide* (Spanish)
13. *Discover a Watershed: The Missouri Educators Guide*
14. *Getting to Know the Waters of Yellowstone National Park*
15. *Exploring the Waters of the Everglades*
16. *Milk River Educators Guide*

Materials for Educators (In Progress)

1. *Discover a Watershed: The Colorado Educators Guide* (English)
2. *Discover a Watershed: The Colorado Educators Guide* (Spanish)
3. *Discover a Watershed: The Columbia Educators Guide*
4. *Getting to Know Canyons of the Ancients*

Materials for Children (Published)

1. *The Rainstick, A Fable* (Children's Story Book)
2. *Spring Waters, Gathering Places* (Children's Story Book)
3. *The Water Story Kids in Discovery Series Activity Book*
4. *Celebrate Wetlands Kids in Discovery Series Activity Book*
5. *Conserve Water Kids in Discovery Series Activity Book*
6. *Fish and Fishing Kids in Discovery Series Activity Book*
7. *Explore Oceans Kids in Discovery Series Activity Book*
8. *Big Rivers Kids in Discovery Series Activity Book*
9. *Discover Ground Water and Springs Kids in Discovery Series Activity Book*
10. *Healthy Water, Healthy People Kids in Discovery Series Activity Book*
11. *Discover the Rio Grande/Rio Bravo Kids in Discovery Series Activity Book* (English)
12. *Discover the Rio Grande/Rio Bravo Kids in Discovery Series Activity Book* (Spanish)
13. *Native Waters, Sharing the Source Kids in Discovery Series Activity Book*
14. *Discover the Colorado River Kids in Discovery Series Activity Book* (English)

15. *Discover the Colorado River Kids in Discovery Series Activity Book* (Spanish)
16. *Watershed Protection Kids in Discovery Series Activity Book*
17. *Discover the Missouri River Kids in Discovery Series Activity Book*

### Materials for Children (In Progress)

1. *Explore Sagebrush Prairie Kids in Discovery Series Activity Book*
2. *On the Water Route of Lewis and Clark Kids in Discovery Series Activity Book*
3. *Canyons of the Ancients Kids in Discovery Series Activity Book*
4. *Discover the Red River of the North Kids in Discovery Series Activity Book*
5. *Coral Reefs Kids in Discovery Series Activity Book*
6. *Bays and Estuaries Kids in Discovery Series Activity Book*
7. *Nestlé Waters Kids in Discovery Series Activity Book*
8. *Waters of Arizona Kids in Discovery Series Activity Book*
9. *Stormwater Kids in Discovery Series Activity Book*
10. *Drought Kids in Discovery Series Activity Book*
11. *Healthy Water, Healthy People Kids in Discovery Series Activity Book* (Spanish)
12. *The Water Story Kids in Discovery Series Activity Book* (Spanish)

### General Publications

1. *Liquid Treasure Water History Trunk*
2. *Lewis and Clark Educators Resource Guide 2<sup>nd</sup> Edition*
3. *A Landowner's Guide to Western Water Rights*
4. *Water, A Gift of Nature*
5. *Water Celebration! A Handbook* (will not be reprinted, will be on the Web)
6. *Intrigue of the Past* (Project Archaeology)

### Products

1. Healthy Water, Healthy People Water Quality Testing Kits
2. Ground Water Flow Model and video
3. Milk River Educators Guide video

### Summary

Total Publications and Products (In Circulation):	42
Total Publications and Products (In Progress):	16

### Contact Person

Savannah Barnes, Publications Director, Project WET International  
 406-994-1913  
 sbarnes@montana.edu

---

河川環境総合研究所資料 第12号

平成16年6月編集・発行

ISSN 1347-751X

プロジェクトWET 国際会議 及び 米国における水辺の整備や利用等に関する調査報告書

編集・発行 財団法人 河川環境管理財団 河川環境総合研究所

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 11-9

企画調整課

TEL 03-5847-8302 FAX 03-5847-8308

ホームページ 『河川環境情報ステーション』

<http://www.kasen.or.jp/>

E-mail [info@kasen.or.jp](mailto:info@kasen.or.jp)

印刷・製本 株式会社サンワ 〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-8 TEL 03-3265-1816 FAX 03-3265-1847

---

